

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら磐田城之崎教室			
○保護者評価実施期間	令和6年9月1日		～	令和7年8月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49人	(回答者数)	47人
○従業者評価実施期間	令和6年9月1日		～	令和7年8月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数)	12人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年10月7日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタッフ間の情報共有ができており、スムーズな連携体制がとれている。	・毎朝朝礼を実施。朝礼の際に全員で運営理念（10項目）を日替わりで確認をし、初心を忘れないようにしている。 ・児童発達支援、放課後等デイサービス共に、朝礼以外の時間で担当ごとで引継ぎの時間を確保している。スタッフそれぞれの業務の進捗状況等を共有しあうことで疎外感が生まれにくくなり、互いに助け合えるような仕組みづくりを心掛けている。	・報連相と情報共有を徹底し、チーム全体として支援に取り組む姿勢を忘れない。 ・明確な役割分担を行い、疎外感が生まれない職場環境を心掛ける。 ・スタッフ同士で感謝の気持ちを忘れない。
2	多種多様なプログラムを提供できるよう創意工夫をしている。	・プログラム実施後に振り返りを毎回行い、反省点や改善点を次回の実施に活かしている。 ・取り組むプログラムが固定化されないよう一か月を通して組み方を工夫している。 ・長期休暇中は外出プログラムを多く取り入れ、社会性の育成、生活スキルの向上を目指しています。	・お子様からの意見も取り入れ、プログラムを組み立てていく。 ・お子様の「やってみたい!」「できた!」の気持ちを大切にできるような内容を心掛けていく。 ・お子様が主体性をもって活動に参加できるような仕組み作りを整えていく。
3	スタッフの入れ替わりが減り、安定したスタッフ体制で運営ができています。その環境の中で、通所を楽しむにしてくれているお子様が多い。	・仕事量や責任の偏りが生まれないよう、情報共有の仕組みを整えています。 ・五領域に沿ったプログラムの組み立てを基盤とし、内容が固定化されないように工夫をしている。	・支援するスタッフ同士もコミュニケーションを円滑に行い、元気で明るい職場環境の維持に努めていく。 ・保護者様との連携を密に行い、お子様の状態把握を怠らない。気になることがあれば気軽に話ができるような関係作りを目指す。 ・スタッフ間で相談しやすい関係づくりを意識する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の回数の少なさ。	・「場所との関わり」という視点から、公共の施設を利用する回数を増やしたが、「人との関わり」という視点では取り組みが弱い。	・スタッフ間で、どのような活動が地域交流として位置づけられるのか共有しあう時間をもつ。 ・他施設の取り組みを学び、自身の施設でどう活かせるかを検討していく。
2	非常時の対応について、保護者様によっては認識のズレが生じてしまっている。また、マニュアルの活用について、スタッフ間の認知度が不十分である。	・昨年度実施したアンケートの結果をふまえ、保護者様に対して発信の仕方を従来のやり方とは変えてみたが、それでは不十分であることが今回のアンケートで分かった。特に保護者会に参加していない方々には発信が不十分になりがちであった。	・保護者様に対し、どのような目的でどのような取り組みをしているかをご理解頂けるよう、発信方法について再度検討していく。 ・マニュアルについては定期的な見直しを行い、スタッフ間でのマニュアル認知度を高めていく。
3	家族支援のイベントや、ご家族に対する研修や勉強会の提供の不十分さ。	・施設として取り組み実績の少なさが影響している。	・他事業所の取り組み内容を学び、自分たち施設で実施に繋げられる為の案を模索していく。 ・保護者様からのニーズを把握し、ご希望に沿えるようなイベントや勉強会を組み立てていく。